平成26年度　両荘中学校　自己評価（学校評価検討委員会）

Ａ　できている　　Ｂ　　だいたいできている　　Ｃ　　あまりできていない　　Ｄ　できていない

領　域	評　価　項　目	評価	自己評価の顕著な結果・意見等	学校関係者からの意見等	改　善　策
学力向上	「学習意欲を高める ためのわかる授業づくり」	B	・学習意欲の高揚、指導法の工夫、個に応じた指導は、80％以上の教師が実践できた。 ・家庭学習の定着について、教師は60％程度であるとしている一方、生徒は80％程度が肯定的であった。 ・教師の80％以上が、「授業形態を工夫し、個に応じた指導に努めている」にも拘わらず、保護者の40％が、「学習内容を十分に理解できていない」「基礎的学力が定着していない」「わかりやすい授業が行われていない」と評価しており、教師の取り組みと保護者の期待に差が認められた。 ・２年生の学習課題解決に対する取り組みや家庭学習の定着度が、他学年に比べて低い傾向が認められた。	・「授業形態を工夫し、個に応じた指導に努めている」と「学習内容を十分に理解できていない」「基礎的学力が定着していない」「わかりやすい授業が行われていない」との教師と保護者のアンケートの意識の差が少なくなるのが理想である。 ・受け身な学習をする子どもが多くなっていると思われる。	・基礎基本が定着していない生徒に対する「個に応じた適切なフォロー」を行う。 ・毎時間の「学習のねらい」と「振り返り」を確実に行い、達成感をもたせる。 ・授業の中での形成的評価を積極的に進め、わかる喜びを味わわせる。 ・相互評価の面からも協同学習の習慣化を図る。 ・２年生には、学年全体への「わかる授業」の展開を通して、学習意欲を喚起するとともに、個人的なつまずきの分析を確実に行い、個に応じた適切な補充を実施する。
	「自主的・主体的な学習習慣と基礎学力のための家庭学習の定着」	B	・授業改善として、一斉指導に体験活動を取り入れて、受け身の姿勢を改善する取り組みがなされている。 ・「基礎学力充実のための家庭学習習慣の定着」に対する教師の取り組みに差があることが認められた。 ・「自分自身で納得できる学習への取り組みができている」生徒は50％以下、「家庭学習を大切にする」生徒の割合は、学年により差があり、今後の重要課題としたい。 ・３年生では、自主学習ノートなどの指導を通して、家庭学習が習慣化されている傾向が見られた。	・家庭学習をするにしても、個人差があり、一人で進められる場合と時間をかけても進められない場合が、はっきりしている。 ・目的意識をはっきりさせてないために学習にどう取り組むかが、解っていなくて、家庭学習の成果が上がりにくくなっている。	・２年生は、学年全体の学習環境を醸成していく必要がある。 ・三者面談において、個々の課題を三者が共通理解するとともに、その後の家庭学習に反映されるよう、学年と家庭との連携を十分に図る。 ・家庭学習の定着に向け、個に応じた自主学習の内容や方法をわかりやすく丁寧に個別指導する。 ・朝の「学習タイム」の充実を図る。
規律ある生活	「望ましい生活習慣の育成」	B	・教師は、頭髪・服装、時間厳守等の「規律ある学校生活」指導をはじめ、生徒指導上の課題に対する共通理解と同一歩調での対応に努めており、生徒も80％以上が実践できていると回答している。 ・加齢とともに「望ましい生活習慣」が定着する傾向にあるが、家庭環境や学年の雰囲気等が大きく影響しており、全体指導と個別指導の両面から細かな指導を継続する必要がある。 ・朝食はとれているが、就寝時刻が遅い生徒が増えた。	・生徒は気持ちのよい挨拶をしてくれる。 ・概ね望ましい生活習慣は育まれている。 ・携帯やスマートフォンなどが原因で就寝時刻が遅い生徒や、起床時刻が遅く、朝食が十分に取れていない生徒もいる。	・生徒指導における教員の共通理解、同一歩調を一層確立し、日々の実践につなげる。 ・学級活動や生徒会活動、道徳教育の充実を図り、生徒の自治力や正義感を高めるとともに、学校生活の改善・向上を目指す。 ・生徒の「就寝時刻・起床時刻・朝食状況」などの実態を定期的に把握する。
	「生徒理解と信頼関係づくりのための相談活動や個別指導の充実」	B	・85％の教師が「カウンセリングマインド」を取り入れた生徒指導に努めている一方、「不登校生徒に対する積極的理解と支援」が不十分で、「相談できる先生がいる」と回答した生徒は60％に達しなかった。 ・生徒の「自分の意見が言いやすいクラスである」との肯定的回答は70％以下で、保護者も「子どものことで気軽に先生に相談できる」との回答は80％に満たず、生徒、保護者ともに教師との信頼関係を期待していることがうかがえた。	・先生が昼休みや休み時間に教室や廊下または校内を巡回していることで、生徒も何かあれば先生に相談しやすい環境にある。 ・保護者が学校に相談をしたいときでも、生徒から止められることもある。 ・知っている先生ならば、保護者も気軽に相談しやすい。	・教師と生徒の信頼関係を高めるため、一人一人に寄り添う生徒指導を推進する。 ・全体指導と個別指導を使い分け、授業を通して心の通う生徒指導を行う。 ・「ノー部活デー」を推進し、放課後等に生徒と教師が共有できる時間を増やすことで、補習や進路相談などの相談活動や個別指導の充実を図る。 ・問題行動発生時には、全職員・全校生が課題を共有し、「みんなの声」等を利用して早期発見、早期対応を図る。 ・教員が地域の集まりや行事等に積極的に参加することで、つながりを作り、保護者が相談しやすい。
	「行事や部活動による良好な人間関係づくり」	B	・教師の「生徒会活動」への取り組みが不十分で、生徒の３割以上が「生徒会活動に協力的でない」と回答した。 ・「地域や学校の特色を生かした学校行事の推進」に80％以上の教師が取り組んだが、「感動した学校行事があった」と回答した生徒は70％であった。 ・地域ボランティアを呼びかけたが、「地域の行事やボランティア活動に積極的に参加した」生徒は、40％であった。 ・教師の80％が「部活動の充実」を意図して取り組み、生徒も80％が「満足な活動」と評価した。一方で、「部活動に参加していない生徒や、行事等にも消極的な生徒に対する指導が難しい」という教師の声が聞かれた。	・体育祭ではクラスが一丸となって頑張っている姿が見れてよかった。ただ、演技時間が長く感じられる種目もある。 ・生徒数減少による運動部数の縮小は仕方がないが、運動が苦手な男子が入れる部活が欲しい。	・各行事等の目的や内容を生徒と教師が共通理解し、系統的・計画的な実践を通して、生徒・教師間の信頼関係を構築する。 ・ボランティア活動や日々の生徒会活動の意義を生徒と教師が共通理解し、学年やクラスは言うまでもなく、部活動としても参加を呼びかける。 ・生徒数の減少による部活動運営の困難さを相互理解し、入部率を高めるとともに、全職員による「人づくり」を目指した部活動経営を目指す。
豊かな心・豊かな環境	「道徳の授業と人権教育」	B	・「道徳」の授業時間が確保できず、半数以上の教師が「道徳教育の推進」に課題を感じている。また、「支援の必要な生徒への適切な指導・支援ができなかった」との評価が40％以上あり、今後の課題としたい。 ・学年による差が認められるものの、「いじめや暴力を許さない」「友だちと仲良く」「相手の気持ちを考える」「困っている人を助ける」等の思いやりや人権意識は、いずれも80％を越えており、それなりに定着していることが伺えるが、20％の否定的考えを持つ生徒の存在も明らかになった。 ・保護者は、「子どもの道徳観、人権感覚の獲得」について、全学年で95％以上が肯定的評価をしており、生徒・保護者・教師の評価に差が認められた。 ・「あいさつはできている」と回答した生徒は95％以上であったが、「時と場に応じた主体的なあいさつ」ができているか否かが課題であるとの教師の声もあった。	・２年生の実情や幼い面が気になる。 ・道徳授業を確保してほしい。道徳的内容のしっかりした読書を薦める等も良い手立てなのでは。 ・日々の生活を大切にして、周りの生徒が正しいことを言える雰囲気を作ってほしい。 ・「いじめ」に対する毅然とした教師の姿勢で学校が変わった、という事例もある。学校一丸で取り組んでほしい。 地域ボランティアは良い取り組みであると思う。地域と関わることの大切さや地域に育ててもらっていることを痛感する。	・「道徳」「人権教育」「総合的な学習の時間」の年間計画を見直し、授業時間を確保する。 ・いじめアンケートやアセス等の実態・意識調査などを通して、自己や学級を振り返らせるとともに、気づきや心の成長を促す指導を継続する。 ・授業をはじめ学校生活全般を通して心を耕し、学びを日々の生活に反映できる力を育てる。 ・学級活動や生徒会活動、部活動等の充実を図り、相手を思いやるさわやかなあいさつをさらに広める。
	「心和む美しい学校を目指した環境づくり」	B	・全ての職員が、環境教育の大切さを自覚し、自ら環境整備に努めており、保護者の90％が「きれいで落ち着いた環境」との評価であった。また、生徒の90％以上が「清掃活動や身の回りの整理整頓ができている」と回答した。	・トイレが改修され学校生活が快適になった。トイレがきれいなことは全てにつながりよいことであると思う。 ・子どもが明るく安心して過ごせる学校にしてほしい。	・日々の清掃活動や地域ボランティアを、校訓「感恩奉仕」の実践の場として位置づけ、師弟同行の取り組みを継続する。
信頼される学校	「学校生活の公開と広報活動の充実」	B	・生徒は「学校の様子を家庭で話す」約80％。「あいさつができる」95％以上。地域とのかかわりも多い。 ・２年生の結果が低い項目が多いが、「相談できる先生がいる」割合は最も高く、日頃の関わりの成果に思われる。 ・全ての教師が家庭との連携を重視し、「学年だより」「学級だより」は保護者との距離を縮め、月中行事などの連絡にも大切に思われる。本年度から「校長室だより」も発行している。一方で、約2割の生徒が「学校からの配布物をお家の人に渡していない」ことは残念である。 ・学校ホームページは昨年末より新しい形になって凍結した状態である。少しずつ打開したい。 ・地域ボランティアを呼びかけたが、主体的に応募する生徒が少なかった。	・落ち着きのないクラスもあると聞くが、先生はよく相談にのってもらえるし、何かあった時もすぐ対応してもらえる。丁寧な対応が信頼を生んでいる。・学校からのたよりが保護者に届いていないのが心配。1年生の時はしっかり渡してくれたが、学年が上がるにつれて曖昧になっている。ユニットだよりは地域回覧なのでよく見る。配布の仕方に工夫がいる。・学校行事で中学生ってこんなに頑張れるんだという姿を見せてもらえた。・平日より土日の方が保護者は出やすい。オープンJHスクールも土日ならもっと参観者が増えた。ホームページの活用、メールシステムの検討を。これからの時代なら必要なのかも知れない。・中学生はよく挨拶をしてくれる。挨拶や地域ボランティアなどは、地域に活力を与えてくれている。	・オープンJHスクールは、今年度２日間２時間にしたが、参観者も多く来年度もこの形で行えばよい。 ・「たより」は、保護者との会話のきっかけにもなり、信頼にもつながるため、「学級だより」はできるだけ発行したい。 ・生活ノートは、生徒との心をつなぐ上でも大切にしたい。一人一人を大切に、丁寧にコメントしたい。 ・ホームページはより見やすく充実したい。緊急連絡にも利用できるため、保護者連絡のメールシステムも検討したい。 ・生徒指導の際、保護者が不信感を抱くことのないよう、親身な対応を心がける。 ・部活動や学校行事等、生徒数の減少にともなう内容やシステムの改編が生じるが、保護者の理解と協力を得たい。 ・生徒も保護者も学力向上を願っている。わかりやすい授業を推進し、信頼関係を構築する。